

人には親切にやさしく

私は、東京生まれの東京育ちで、平成10年に登別市に来ました。

家族は、娘夫婦と孫4人の7人です。

登別は、ザ・ドリフターズの登別温泉の歌で知っていました。

北海道に来て驚いたことは、内地と違って雨戸がないことです。これは、雪が降るのでつけないと言ったことでした。

私は、登別市ときめき大学3年生で新聞サークルに入っています。

新聞サークルでは、政治や経済、暮らしなど、交代で毎月発表しています。

私も11月17日の部会で紀宮様婚約と新潟中越地震を発表しました。

2004年は、暗いニュースが多かったので、紀宮様婚約は、少しほっとしました。

また、毎週月曜日、13時から16時まで町会のカラオケに行き、笑ったりするなどして楽しんでます。

10月には、孫の通学している富岸小学校で学習発表会があり、小学校5年生の孫は、全員で沖繩の島唄『涙そうそう』を演奏しました。すごい良いできで、先生と児童の協力、毎日の練習の成果であり、感動しました。

11月には4歳の孫の保育所で発表会があり、両親と父方の祖父母、私とで見ました。真珠姫をやる

のことで、毎日家で練習していました。当日は、ピンクのドレスに、頭にはティアラをつけて上手にできました。

私も北海道に来て6年になりましたが、物を大事にする、人には親切でやさしいということがすごくわかりました。

2005年は酉年です。酉年の人は、親切で世話好きだそうです。家族全員健康で新年を迎えたいです。

(富岸町／柴崎常江さん)

登別市文化協会の
40周年を節目とって

登別市文化協会は、本年40周年を迎えます。昭和40年に12団体、約700人で発足したそうです。現在は、35団体、約2千500人の会員です。平成7年度に30周年のお祝いをしてから10年がたちました。

40周年の記念事業としては、平成16年、平成17年の2年間にわたり実施します。

平成16年度は、7月に『フォトフェスティバル』を、10月に『登別の名所・史跡めぐり』を行ったところ、会員のみならず、市民の皆さまの参加もあり、大変好評でした。

本番の平成17年11月3日には、記念式典、祝賀会、記念誌発行を

予定しています。

また、2つの事業として『白石市との文化交流』『文化ふれあいフェスティバル』を実施したいと思います。

登別市の文化育成と振興を図ることを会の目的としていますので、この40周年を節目として、なお一層、市民の皆さまのご支援、ご協力をお願いします。

(柏木町／小塚純一さん・登別市文化協会・40周年担当事務局長)



▲登別市の名所・史跡めぐり



▲子どもの写真教室

7

月



▲『登別市まちづくり基本条例検討委員会』提言書を提出 (7月27日)



▲リサイクルまつり'04イン登別・白老 (7月25日)

2004年を振り返って⑦